



陽の木かげ・そよかぜだより



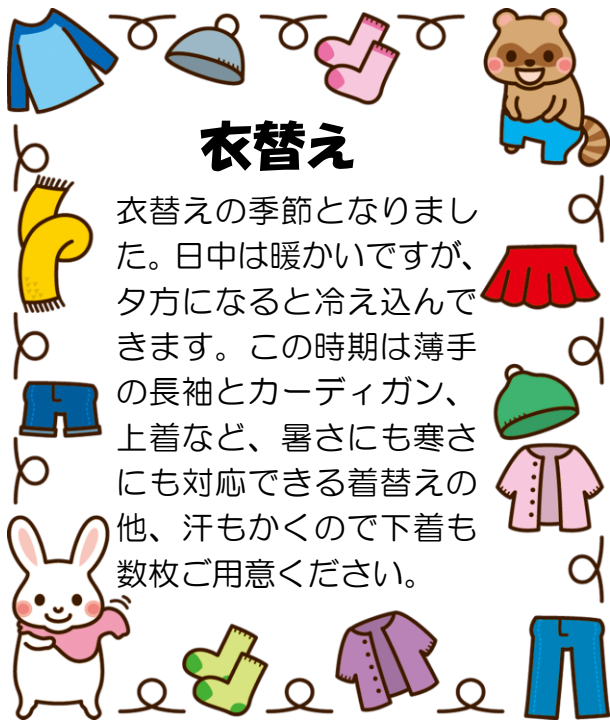
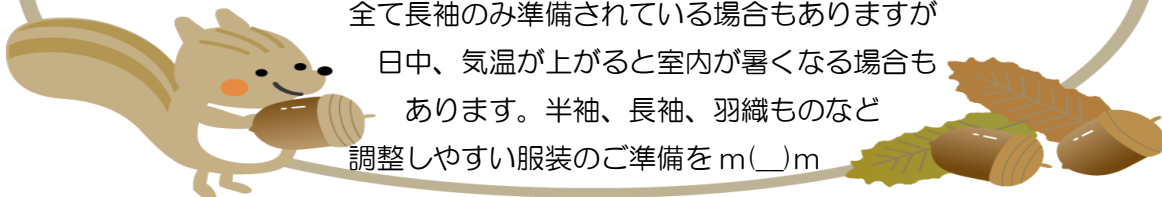
朝晩が急に寒くなり、紅葉も一気に彩りが増す時期となりました。去年はコロナ禍で自粛モードでしたが、今年はお出かけされる機会も多くなると思います。お出かけの際は、天気予報で最低気温・最高気温を調べ調整しやすい服装を準備されてくださいね。病児保育でも、朝晩が寒いため

全て長袖のみ準備されている場合もあります

日中、気温が上がると室内が暑くなる場合も

あります。半袖、長袖、羽織ものなど

調整しやすい服装のご準備をm()m



衣替え

衣替えの季節となりました。日中は暖かいです、夕方になると冷え込んできます。この時期は薄手の長袖とカーディガン、上着など、暑さにも寒さにも対応できる着替えの他、汗もかくので下着も数枚ご用意ください。

感染性胃腸炎

先月はアデノウイルスで発熱するお子様が多いでした



感染性胃腸炎は、ノロウイルスやロタウイルスが原因の胃腸炎で、数時間前まで元気だったのに、突然顔色が変わり嘔吐が始まるケースが多く見られます。症状が出てから数時間が一番重く、水分を与えても吐いてしまいます。吐き気が治まるまで様子を見て、顔色が戻ってきたら経口補水液などを少量ずつ与えましょう。乳児の場合、母乳はそのままあげても構いません。下痢の症状は、数日前から出る場合もあります。嘔吐物や便から感染するケースが多いので、早めの処理と消毒が、集団感染の予防につながります。

インフルエンザ予防接種が始まります



10月から、各医療機関でインフルエンザの予防接種が始まります。インフルエンザは例年12～4月ごろに流行し、1月末～3月上旬に流行のピークを迎えます。十分な抗体ができるまでには2回目接種から2週間以上かかりますので、1回目接種は遅くとも11月上旬までにすませましょう。

生後6か月から

インフルエンザワクチンは、インフルエンザを完全に予防することはできませんが、肺炎や脳症などの重症化を予防します。ワクチンは生後6か月から接種できます。発病すると重症化しやすい子ども、妊婦、お年寄り、特に接種を受けることがすすめられています。

2回接種

日本では、生後6か月～12歳までの子どもは、2回接種が原則です。子どもは、2回接種のほうが抗体の量が増えるからです。インフルエンザワクチンでは、1回目と2回目の接種間隔は、4週間程度あけるのが望ましいとされています。流行の前に2回目の接種が終えられるようにしましょう。



家族みんなで!

重症化しやすい乳幼児をインフルエンザから守るためには、家族みんなのワクチン接種に加え、大人たちも手洗いやせきエチケットを徹底すること、流行の時期は、人が多く集まる場所に行かないようにすることが大切です。

9月15日～10月20日までに病児保育「陽の木かげ」でお預かりした病名と多かった年齢

多かった病名…感冒・インフルエンザA型・咽頭炎の順に多かったです。

多かった年齢…4歳・2、3歳同数・6歳以上の順に多かったです。

最近、インフルエンザの流行があったため、小学生のご利用多かったです。小さい頃、よく利用されていたお子様に久々お会いすると、成長ぶりにびっくり。今年はコロナ禍で感染症に罹らなかった子どもたちの免疫力が低下しているようで、小さいお子様から小学生になった大きなお子様も熱を出すことが多かったです。



先月は、アデノウイルス感染症に感染しているお子様が多く、高熱も数日続くことが多かったです。アデノウイルスは沢山の種類があり、それぞれ感染しやすい場所があります。嘔吐下痢の症状が出るアデノウイルス胃腸炎、目に症状が出れば流行性結膜炎、プールの時期ならプール熱と同じウイルス感染症でも種類、感染場所で病名、症状が異なります。

アデノウイルスは免疫がつきにくく、種類が多いため、ひとつの型のアデノウイルスに感染しても、他の型のアデノウイルスに感染して、何度も同様の病気になることがあります。

アデノウイルスの感染経路は、「飛沫感染」と「接触感染」です。「飛沫感染」とは、咳やくしゃみなどの唾液を介した感染で、「接触感染」は、保菌者と直接ふれ合って感染するケースと、病原体の付いたタオルや容器を介して間接的に感染するケースがあります。

幼稚園・保育園の出席停止期間は・・・

アデノウイルスは、学校保健法の第二種伝染病に指定されています。そのため、感染したことが分かったら出席停止となります。発熱や結膜の充血、喉の痛みなどの症状がなくなってから2日間すれば、登校することができます。

アデノウイルスに感染したお子様を看病するには・・・

アデノウイルスは子供が感染しやすいウイルスですが、大人が発病することもあります。きっかけは主に、「感染した子供の看病」です。看病をするときには、子供の咳やくしゃみなどによる唾液、目やに、排泄物、吐しゃ物などに直接触れないようにします。



アデノウイルスを予防するには・・・

感染を予防するには、手洗い・うがい・消毒が効果的です。手洗いは、石鹸で指の間までしっかりと洗い、アルコールで消毒してください。

ウイルスが付いたおもちゃなどを、乳幼児が口に入れてしまうことでも感染します。小さいお子さんがいる家庭では、おもちゃなども消毒しておきましょう。

また、感染者とタオルや寝具を一緒に使うのも避けてください。

